

授業科目：歯科法医学，法医学

担当教員：網干 博文，堤 博文，近藤 真啓

授 業 の ね ら い	<p>法医学は，元来，地味な学問であり，これがもてはやされる時代は良い世の中ではない。しかし，人権が擁護される法治国家では不可欠の学問である。人は確実に死を迎えるが，その死に方は誰も分からない。さまざまな事件や事故に遭遇した死体はもちろん，生体についても個人識別を行うことは，社会生活の秩序を守るために極めて重要である。そこで，識別のための検査試料を口腔領域に求め，新たな検査法の開発を中心として，歯科法医学の重要性について考察させることをねらいとする。さらには，さまざまな状況に置かれた死体を観ることで，生の尊厳を見極めることができるようになり，医療従事者としての倫理観を醸成させることをねらいとする。</p>
テ ー マ	<p>テーマ：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 歯科所見からの個人識別・ デジタルX線写真およびX線CT画像を利用した年齢推定法の研究・ DNA型検査による歯からの個人識別・ 医療をとりまく法律問題
内 容	<p>内容：</p> <p>歯の齶蝕やその処置状況を記号化してコンピュータに入力し，どの程度の所見が一致すれば同一人とみなし得るか，また遺体の歯のレントゲン所見から個人識別に有効な形態的特徴を抽出する方法について検討するとともに，証拠保全の立場から歯髄腔の狭窄程度をデジタルX線やデジタルCT画像を利用して画像計測し年齢を推定する方法や歯科材料の成分分析による製品識別を個人識別に応用する手法についても研究を行っている。</p> <p>DNA型検査により，陳旧化した歯髄，歯石および唾液斑からDNAを抽出し，検査目的とする遺伝子領域をPCR法により増幅して個人識別や性別判定を行うとともに，多数例の歯髄および歯石DNAを試料としてDNA多型のデータベースを作成している。</p> <p>一方，インフォームド・コンセントや医師—患者関係については社会的関心がますます高まり，患者の自己決定権と医療の理念との葛藤の間に，いかにして調和を見いだすかが医事紛争での最大の争点となる。当講座では法律面からアプローチし，歯科における医療過誤問題の分析や医療関係文書の検討などを行っている。</p>
成 績 評 価	<p>成績評価：</p> <p>日々の研究態度を評価する。</p>
そ の 他	<p>その他：</p>